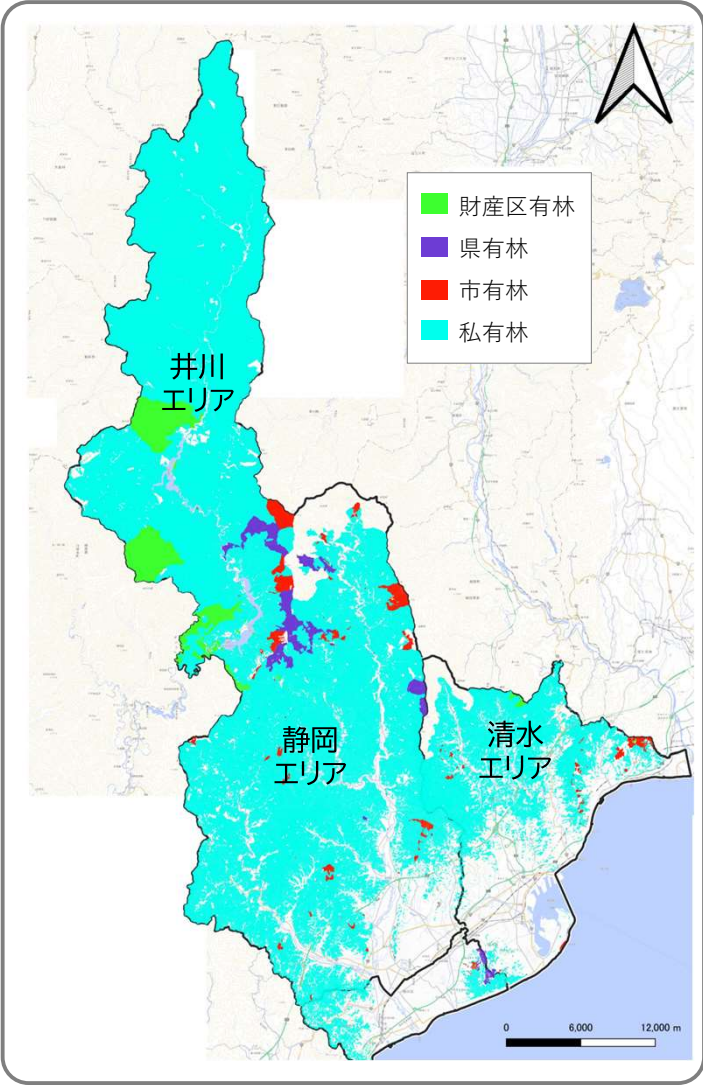


第2回静岡市持続可能な森づくり研究会

市内3森林組合の概要

1 組合の概要



組合名	井川森林組合		静岡市森林組合		清水森林組合	
歴史	大正15年5月21日登記		昭和57年4月1日登記 静岡市、安倍、藁科の3組合が合併		昭和27年3月28日登記 小島、両河内の2組合が合併	
森林面積	国有林	0 ha	国有林	2,950 ha	国有林	1,246 ha
	公有林	5,134 ha	公有林	2,045 ha	公有林	349 ha
	私有林	43,644 ha	私有林	41,534 ha	私有林	10,778 ha
	合計	48,778 ha	合計	46,529 ha	合計	12,373 ha
組合員数	435人 (正:394人、準:41人)		1,282人 (正:1,257人、準:25人)		1,192人 (正:248人、準:944人)	
役員/職員	10名 / 10名		16名 / 13名		15名 / 7名	
作業班	5班15名、3,058人工/年		2班8名、1,871人工/年		4班10名、2,161人工/年	
森林経営 計画面積	32 ha		2,289 ha		609 ha	
主伐面積 造林面積	0.8 ha ※ 1.5 ha ※		7.7 ha ※ 28.0 ha ※		1.2 ha ※ 1.0 ha ※	
利用間伐 伐捨間伐	3.7 ha ※ 73.7 ha ※		75.3 ha ※ 182.0 ha ※		16.0 ha ※ 72.3 ha ※	
素材生産	1,917 m ³		5,599 m ³		2,516 m ³	
出資総額	34,365千円		31,274千円		47,432千円	
収益 (売上高)	229,756千円		367,028千円		177,784千円	

令和5年度森林組合統計(令和4年度分)より ※は平成29年度～令和4年度の6カ年の平均値

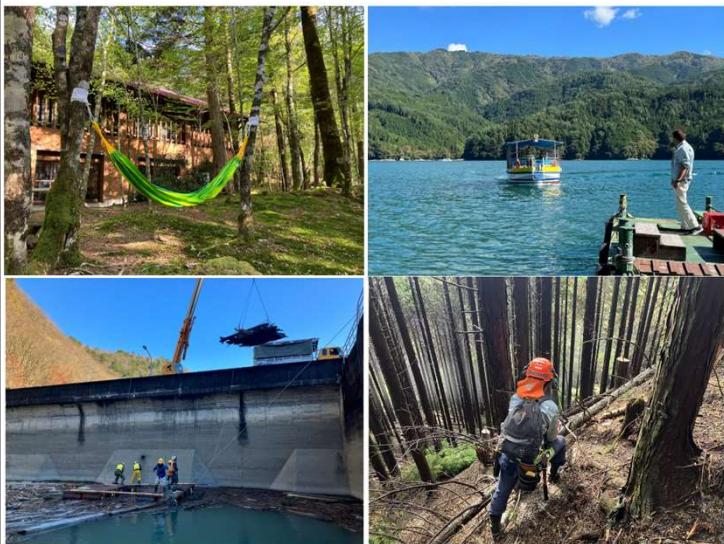
2 各組合の特色

井川森林組合

多様な事業展開により、 地理的要因を補う

・森林整備を基幹としつつも、不利地域としての実情を踏まえて県民の森指定管理、井川湖渡船の運営、ダム湖の流木回収等、独特な事業を行うことで地域の森林管理を実施してきた。人工林の高齢級化を懸念しており、資源循環が可能な場所では木材搬出・再造林を実施している他、奥山地域では環境林整備を模索している。

・消防団、交通安全推進員、子供園へのイベントへの協力等、地域貢献にも尽力をしている。



【担当者意見】

過疎地域のため労働力は不足傾向。反面、移住者の雇用を推進しており、全従業員の1/3が元々は移住者。令和6年度より社会人向けインターンシップを導入し、2名を採用・育成中。住宅の確保が課題だが、今後も移住者の採用を積極的に進めると共に、場所毎に適した方法で森林を管理していきたい。

静岡市森林組合

市内では最も大規模に 木材生産を行っている

・組合員を中心とした林家から依頼を受け、森林整備、素材生産を行う。県内他地区や清水、井川と比べて、古くから皆伐施業が多く植林面積も大きい。

・100ha以上の森林を所有する組合員が38名と比較的多い。以前は自伐林家だったが、現在は組合や林業事業体に任せているという組合員も多い。

・組合職員のほか、協力事業体10社程度と施業を行っている。

・林道改良工事、作業道開設工事も行っている。

・一般個人、寺社仏閣、小河川内等での支障木伐採も多い。

・産業フェア等のイベント出展や学校での森林教室など、普及啓発事業も行っている。



【担当者意見】

材価の低迷、需要の低迷、販路の乏しさ、という問題がある。

現場が遠く、運搬費用を価格に反映できない。

公共補助金の標準単価が実際の単価より安い。

様々な関係団体があり複雑。

清水森林組合

企業所有林の存在が大きい

・地域としては、農業が盛んで、林業は過疎状態である。林道が少なく、農道を使って木材搬出している。

・自伐林家がほぼおらず、多くが小規模森林所有者である。所有面積平均は0.2haで、道を作ると山林がなくなってしまうような筆もある。

・祖先から継承した木材と土地という思い入れを持つ人もいれば、他県や外国に売り払ってしまう人もいる。

・企業所有林で生産した木材を企業店舗の内装、家具やノベルティに活用している。

・JAアグリフェスタなどのイベント参加や、農業高校・小学校での森林教室など普及啓発活動も行っている。



【担当者意見】

森林経営管理制度に基づく事業実施に至るまでの所要時間が長い。

ゾーニングするのではなく、行政で買上げて維持管理を行うほうが良いのでは。

